



科学の甲子園 目標は頂点

松本秀峰、全国大会に来月出場

教育

高校生が理工系の知識と応用力を競う「第6回科学の甲子園全国大会」(科学技術振興機構主催)が3月17日から茨城県つくば市で始まる。松本秀峰中等教育学校(松本市)が県代表として出場。県勢初の総合成

績10位以内入りが期待されている。

全国大会では、6〜8人1チームで筆記と実技に挑む。筆記では物理、化学、生物、地学、数学、情報から出題され、約2時間以内全員で分担して解く。昨年の問題用紙は約50ページあった。実技では、生物や物理の実験、工作物を作製して精度やスピードを競

昨年の問題(抜粋)

【筆記競技】

- テニスボールが時速230kmで壁に衝突したとき、テニスボールが壁に及ぼす平均の力を求めなさい。
- 人工衛星を打ち上げるロケットは東向きに打ち上げられることが多い。西向きよりも少ない燃料で打ち上げることができるからである。その理由を説明せよ。
- 3以上の自然数の平方は二つの自然数の平方の差で表されることを示せ。

【実技競技】

- 用意された材料や器具類を使って、納豆菌のDNAを捕獲せよ。

う。中高一貫校の松本秀峰は、高校2年にあたる5年生でチームを編成。メンバーの多くが担当科目で学年1位をとったことがある「スペシャリスト」だ。昨年11月に9校19チームが出場した県大会で、初めて総合優勝した。将来、物理学者を目指し

ている三沢竜太郎君(16)は「1日4時間、物理の勉強をすることもある。県大会ではケアレスミスをして本当に悔しかったので、本番では落ち着いてやりたい」。リーダーの松田優樹君(17)は「目標は全国での優勝。全員がその意識を持ってやっつけていきたい」と意気込んでいる。(井口恵理)